

docomo **KDDI** **SoftBank** **Rakuten Mobile**

日本の5Gチャンス!

日本の5Gキーパーソン

総務省+4大キャリアが初座談会

NTTドコモなどキャリアの5Gプレサービスが今年9月にスタートする。ついに日本でも5G時代が幕を開ける。そこで、総務省とキャリア4社から日本の5Gを牽引する「5Gキーパーソン」5人が一堂に会する座談会を行った。総務省の5G政策は何を目指しているのか。キャリア各社はプレサービス、そして来春スタートする商用サービスでどのような5Gサービスを提供するのか。さらに、各社が構想する5Gの新ビジネスモデルの姿も語り合った。(司会・構成：渡辺 元・本誌編集長、写真：川津貴信)

日本が誇るべき キャリアの5G計画

—— 日本の5G行政を主導してこられた総務省・片桐課長は、キャリア4社による5Gへの取り組みをどう評価していますか。

総務省・片桐 日本が誇るべきは、キャリア4社の計画で全国の98%の国土が5Gでカバー可能なエリアになることです。4社の5Gに対するご尽力、強い意気込みは間違いなく世界一です。日本は5Gの展開に必要な4Gと光ファイバーが全国隅々までカバーしています。その上で4社が5G展開への強い意向を示されたのは大変素晴らしいことです。4社は日々全国で5Gの説明会を開催したり、実証実験、自治体や企業とのパートナーシップを組むといったさまざまな取り組みをされていて、全国各地で5Gへの関心が非常に高まっています。実証実験などでフラッグシップ的な成功モデルを次々に見せていただきたいと思います。全国で5Gに関心を持たれている方は、典型的な成功事例を参考にして事業を計画できます。その意味でも、今年9月のラグビーワ

ールドカップでの5Gプレサービス、来年春から本格的に開始される商用サービスで、B2Cは当然ですが、B2BやB2B2Cの成功事例が出てくることに非常に期待しています。

—— キャリア4社は9月のラグビーワールドカップでの5Gプレサービスや来年の商用サービス開始当初、どのような5Gサービスを提供していく予定ですか。特に5Gスマホがまだ普及していない商用サービス開始当初では、B2BやB2B2Cサービスのマネタイズが重要だと思います。

NTTドコモ・中村 弊社は以前から5Gのいろいろな実証実験やパートナー企業との取り組みを実施していますが、ニーズが非常に高く反響が大きいのは土木機械やロボットなどの遠隔操作と、高速性を活かした4K・8Kの映像サービスです。これらはビジネスチャンスになる可能性が大きいと思います。現在建設業界では働き手不足が深刻になっており、遠隔操作や自動運転はそれを解決する非常に良いサービスになり得ます。建設業界では安全性が厳しいため、しっかり検証して安全性を確立した上で本格的なサービスを提供することになり

ます。そのためにも実証実験が重要です。

ラグビーワールドカップは弊社がスポンサー企業の1社で、力を入れています。弊社の5Gプレサービスはラグビーワールドカップの試合会場でサービスを提供します。試合は全国各地で開催されますが、できるだけ多くの会場でスタジアムソリューションを展開する計画を進めています。詳細はまだ言えないのですが、かなり楽しいことをいろいろ提供する予定です。弊社はこれまでスポーツイベントやライブイベントのさまざまなスタジアムソリューションの実証実験を実施してきました。ARなどを使っていろいろな付加情報を映像に映し出したり、多視点の映像を見られるようにするなど、ライブで見ながら楽しめるサービスにチャレンジしています。弊社だけでなく、そのような技術に長けたパートナー企業とも協力しながら、スタジアム内にいる方はもちろん、スタジアム外にいる方も一緒に楽しめるソリューションが、これから花開くと思います。来春の5G商用サービス開始時点では5G端末がまだ普及していないと予想されるため、4G端末を持っているお客様にも楽しんでいた